

E. FORUM 全国スクールリーダー育成研修 2009年度

はじめに

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっている。そこで、京都大学大学院教育学研究科では、2006年度、全国の希望者に研修機会を提供するE. FORUM（教育研究開発フォーラム）を設立した。E. FORUMでは、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を実施するとともに、全国の教師たちの知見を共有・蓄積するシステムとして「カリキュラム設計データベース」を開設している。詳細については、ホームページをご覧ください（URL： <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>）。

2009年度には教員免許更新制の導入に伴い、京都大学として教員免許状更新講習を提供することとなった。そこで2009年度のE. FORUMについては、前年度までの実績を生かしつつ、教員免許状更新講習と一体化させる形で研修を提供する形を採ることとなった。以下、その様子について報告する。

1. 免許状更新講習（必修領域）【コードA】： E. FORUM で学ぶ教育の最新事情

まず、免許状更新講習の必修領域として、「政策動向と学校マネジメント」・「子ども理解と学級経営」という大きく二つの柱から成る12時間の研修（2009年8月20日～22日）を提供し、現代の教師に求められる力量形成を図った。

具体的な講義・演習は、下記の通りである。

- ▶講義「学校の危機管理 ―いざという時に役立つ具体的方策の検討」（担当：教育学研究科教授・高見茂）
- ▶講義「教育政策の動向」（担当：教育学研究科准教授・金子勉）
- ▶講義「学校における情報セキュリティと個人情報保護」（担当：学術情報メディアセンター准教授・上原哲太郎）
- ▶講義「教職の専門知 ―学校を巡る状況変化を踏まえて」（担当：教育学研究科教授・楠見孝）
- ▶講義「子どもの発達」（担当：教育学研究科准教授・明和政子）
- ▶演習「カウンセリング・アプローチ」（担当：教育学研究科教授・桑原知子）
- ▶演習「教師のためのアサーティブコミュニケーション」（担当：教育学研究科准教授・大山泰宏）
- ▶講義「学習指導要領の改訂と教師の役割」（担当：田中耕治）



本講習については、東は東京から西は熊本まで1都2府11県から73名の方が受講された。研修評価アンケートにおいては、「講師の先生方の熱意の感じられる講習でした。科学的根拠に基いた研究の大切さを改めて感じる事ができた」、「それぞれの講座内容が関連性をもっており3日間の講座を通じて『教職』について多面的（立体的）にとらえる事ができた」、「資料の準備、スタッフの案内、司会、非常に親切で、安心できました」といった高い評価が寄せられた。



2. 免許状更新講習（選択領域）【コードG・H】： E. FORUM で学ぶカリキュラム設計

次に、免許状更新講習の選択領域として、「E. FORUMで学ぶカリキュラム設計A：パフォーマンス課題の作成と活用」（コードG：12時間／2009年8月22日～24日）・「E. FORUMで学ぶカリキュラム設計B：ルーブリックの作成と活用」（コードH：6時間／2009年8月24日）を提供した。

これらの研修は、知識・技能を活用する力を評価する方法として適しているパフォーマンス課題や、その評価指標であるルーブリックの作り方を体験的に学んでいただくとともに、CDDBの活用方法をご説明する

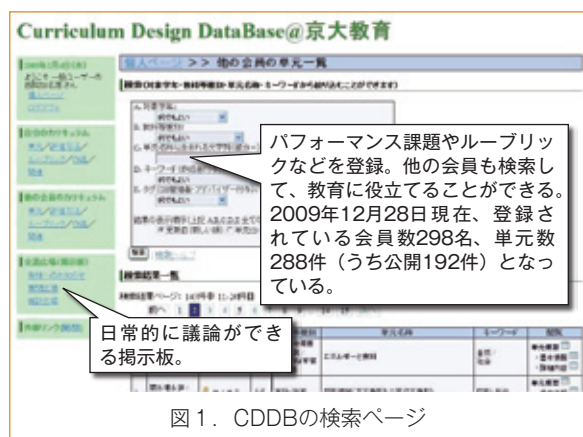


図1. CDDDBの検索ページ

内容が中心となっている。講師は教育学研究科の准教授・西岡加名恵、助教・中池竜一、助教・赤沢真世が務め、特にCDDDBの研修についてはマニュアル作成を担当した松井保樹先生（京都産業大学附属中学・高等学校・非常勤講師）にも多大なご支援をいただいた。

またコードGについては、23日をE. FORUM学校教育研究フェスタとして開催し、下記を提供した。

- ▶ 講演「国際的視点から見た日本の教育」（担当：教育学研究科教授・杉本均）。
- ▶ 実践報告「学力格差をどう乗り越えるか」
- ・『活用』を『習得』に生かす授業」田中容子先生（京都府立園部高等学校・教諭）
- ・「パフォーマンス課題を使って学習後のフォローアップを行う」井上典子先生（京都市立大枝中学校・教諭）
- ・「教師が学ぶということ・教師を教えるということ」原田三朗先生（愛知県宝飯郡小坂井町立小坂井東小学校・教諭）

さらにコードG・Hでは、前年度までに同様の研修を受けたE. FORUM会員にサポーターとしての参加を呼び掛け、新旧の受講者の交流を図った。この形は、新しい受講者にとっては研修内容をどのように実践で用いればよいのかについて前年度までの受講者から学ぶ機会を提供するだけでなく、前年度までの受講者にとっても研修内容についての理解を深める点で意義の大きいものである。



研修評価アンケートには、「受講者へのきめ細かな配慮やサポートがあり、講習の内容も非常に充実しており、かつ今後の実践にいかせる内容であったことがすばらしかったです。とても楽しく、深い学びができました!!」、「今までと全く違った側面から、授業の組み立てを考えたり、教科が生徒に求める本質を考える契機になった」、「質の高い内容、無駄のない工夫された運営、なにより教育と、その先にいる子どもたちへの愛と願いと責任感 [が良かった]」、「一方的な講義ではなく、対話ができ、自分のレベルに合ったアドバイスなどを頂くことができた」といった声が寄せられた。

なお参加者は、表1の通りであった。

表1. 参加者の分布と人数

	分 布	更新講習 受講者	サポ ーター等
G	東は沖縄から西は栃木 まで2府14県	25名	37名
H	東は東京から西は鹿児 島まで1都2府9県	17名	17名

3. 今後の E. FORUM

2010年3月27日には、第5回実践交流会を予定している。これについては、参加者間での実践交流と、下記のミニ・シンポジウムを計画している。

- ▶ ミニ・シンポジウム「効果的な教員研修の進め方」
- ・「今、京都市立衣笠中学校の校内研修を振り返って!」北原琢也先生（京都橘大学 教授）
- ・「教育のスペシャリティーを輩出する確かな土壌を構築し、現場発の真の教育改革を実現したい～汎用型教師から専門家としての教師へ 教材研究からカリキュラム研究へ～」望月実先生（静岡県浜松市立三ヶ日西小学校 教諭）
- ・「高倉小学校と京都大学大学院による共同授業研究」徳永俊太さん、本所恵さん、細尾萌子さん、趙卿我さん（京都大学大学院教育学研究科博士後期課程・大学院生）

今後もE. FORUMは、最新の研究成果を踏まえた研修内容を提供し続けることによって、より良い教育づくりの一助となりたいと願っている。

（文責：西岡 加名恵）